

ITパスポート試験へのCBT方式導入について

独立行政法人情報処理推進機構
IT人材育成本部
情報処理技術者試験センター

1. はじめに

経済産業省は情報処理技術者育成のため国家試験として情報処理技術者試験を昭和44年から実施している。この情報処理技術者試験の中の一つの試験区分として、平成21年4月の制度改定時に、ITパスポート試験が新たに創設された。これまで（平成23年4月現在）4回試験を実施したところであるが、応募者累計は25万人を超え、多くの皆様に評価され、受け入れられる試験となっている。

ITパスポート試験では、これまでの筆記方式に替え、CBT（Computer Based Testing）方式を平成23年11月に導入する予定であることから、筆記方式との違いやメリット、受験申込方法等について説明する。その説明の前に、まず、創設の背景を含め、ITパスポート試験について簡単に触れておく。

2. ITパスポート試験について

(1) 試験の目的及び対象者像など

近年、情報技術（IT）は社会や生活の隅々に

(1)ITパスポート試験が対象とする人材像

“グローバルなコミュニケーション社会において、企業情報を安全に扱い、ITで明日の強い企業を創るビジネスイノベーションを支える基礎知識を持った人材”

＜具体的には以下のような人材＞

- ・ ITを最大限活用して、業務課題の把握と解決力を持つ人材
- ・ 社会的な基礎知識を備えつつ、職業人として必須のIT力を兼ね備える人材
- ・ 情報セキュリティ等のITのリスクを理解し、安全に情報収集と活用ができる人材

(2)出題の特色

- ・ 業務においてITを活用する上で必要となるITの基礎的な知識を出題する
- ・ 担当業務を理解する上で必要となる経営全般の基礎知識を出題する
- ・ 業務を安全に遂行するために必要となるセキュリティに関する知識について、積極的に出題する
- ・ 新しい技術動向に関する問題を積極的に出題する
- ・ 実務で遭遇する身近な場面を取り上げた問題を織り交ぜて出題する

図 1

まで浸透し、社会で働く全ての職業人や、学生にとっても、社会環境に必須のものとなっている。また、ITの潜在力を自らの業務に積極的に活用し、付加価値を生み出していくことが世界の中で日本の産業競争力を高めていく上で重要である。

ITパスポート試験は、職業人として誰もが共通に備えておくべきITに関する基礎的な知識を測る試験として創設され、試験の対象とする人材像及び出題の特色は図1のとおりと、まさにITで企業等の強い明日を創っていくための試験として実施している。

(2) ITパスポート試験の評価

今年で3年目を迎えたITパスポート試験であるが、毎年10万人を超える多数の応募者があるほか、企業や学校における評価も高まってきている。企業に関していえば、新人研修の一環としての受験や社内推奨試験として活用している企業も多く、こうした評価は、IT系企業のみならず、非IT系企業にも広まって来ている。これは、ITパスポート試験の特色でもあるITに関する知識だけでなく、経営全般的な基礎知識を問う試験であることも、その1つの要因と考えている。さらに、入社後の試験合格を義務化している企業や、新入社員の採用時において、試験合格者をITに関する基礎知識を持ち合わせているとして、プラス評価している企業もある。他方、大学に関していえば、試験合格者に対する入試優遇制度を設けている学校や、単位認定制度を導入している学校もあり、教育機関においても高い評価を得ている。(詳細はITパスポート試験紹介サイト¹を参照。)

また、ITパスポート試験の普及を目的として、産業界・教育界の長を発起人とするITパスポート試験普及協議会²を経済産業省と連携して発足させ、試験の普及に向けて取り組んでいるところであるが、本協議会に向けたアンケート結果(第2回ITパスポート試験普及協議会資料³)

の一部を紹介すると、図2(1)、(2)のとおりである。企業における利用の高まりが確認できるほか、教育機関における「学生の基礎力向上」や「就職活動において評価」等の高い評価を受けていることが見てとれる。

3. CBT方式導入のメリット

さて、このように高い評価を得ているITパスポート試験は、平成23年11月からCBT方式を導入する予定である。CBT方式の導入により、筆記方式で実施している現行のITパスポート試験が抱えているいくつかの「制約」が解消され、ITパスポート試験がより受験のしやすい、身近な試験となる。以下では、CBT方式導入のメリットを示す。

(1) 受験のしやすさ

受験者にとって最大の利点は受験がしやすくなることである。現在、春期と秋期の年2回の受験機会が、CBT方式では年に何度でも受験できるようになる。例えば、就職活動の一環でITパスポート試験の合格を目指す学生にとって、春期試験で受験機会を逃すと、企業の新卒採用活動が一段落した後の秋期試験まで受験機会がなかった。しかし、CBT方式では、企業の採用活動が本格化する前から本格化している最中にかけて、いつでも受験が可能となる。また、受験者が都合の良い会場、日時で試験が受けられるようになる。

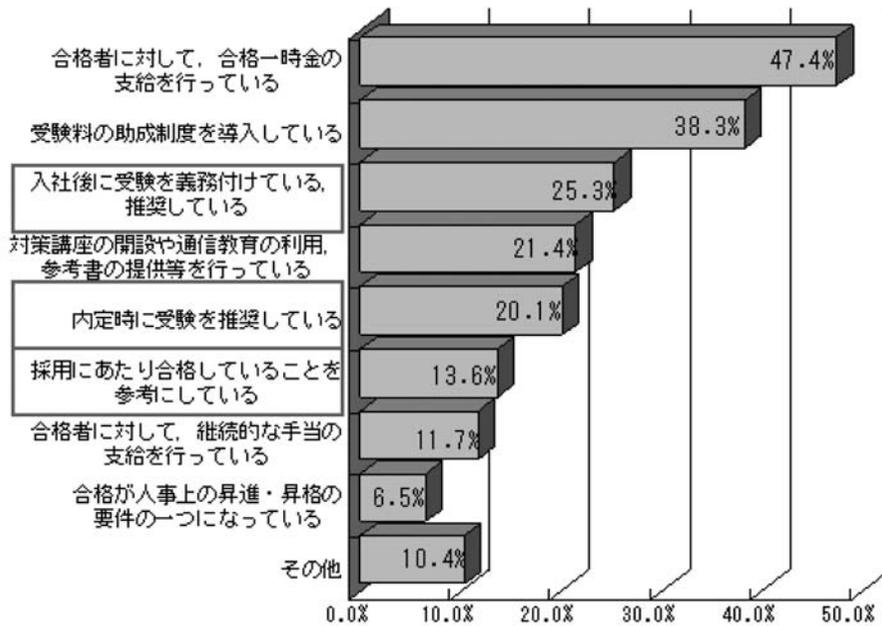
(2) 学習計画立案の容易化

CBT方式では、試験会場、試験日時を選択できるため、学校等の講義の後などに間を置かず直ぐに受験できるようになるので、受験者の学習ペースや都合に合わせて学習計画を立案することが可能になる。

さらに、急用などで予定が変わった場合でも、試験日まで1週間以上前であれば試験会場や試験日を変更することも可能となる。

(1) 企業における活用方法

質問：貴社ではITパスポート試験を活用していますか。（回答数：154）



(2) 教育機関における評価

質問：ITパスポート試験を利用することにより、貴校ではどのような成果が出ていますか。もしくはどのような成果を期待されていますか。（回答数：118）

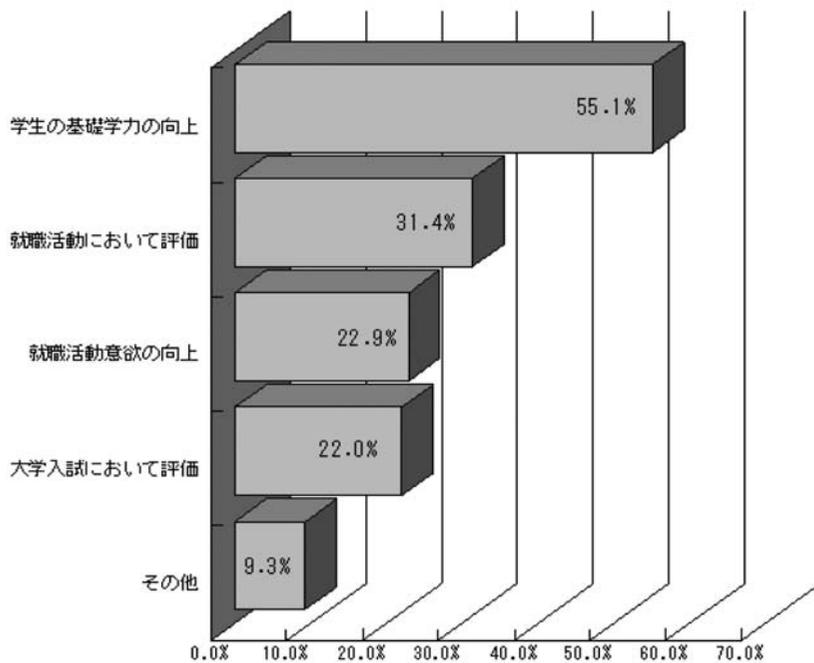


図2

<ITパスポート試験受験の流れ>

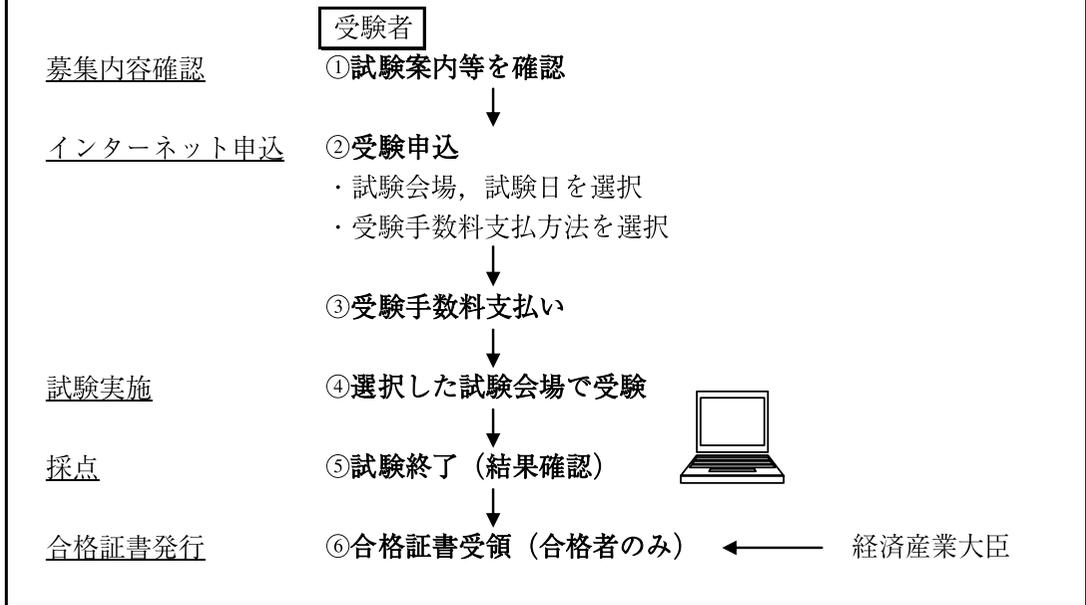


図 3



図 4

(3) 申込みから受験，試験結果公表までの迅速化

申込方法によっては，試験日の前日に申し込むことも可能となるため，思い立ったら直ぐに受験できるようになるほか，試験結果もその場で画面に表示され，確認することができる。また，試験後，成績をダウンロードすることで，改めて自分の成績を確認することもでき，学校や企業への報告にも利用可能である。このように申し込みから受験，試験結果の把握までが，筆記試験に比較して，大幅に短縮されることによって，利便性も格段に向上する。

その他，筆記方式では，受験番号等の誤記入で採点されないといったケースもあったが，CBT方式では受験者端末にログインできれば，こうしたミスも無くなる。

このような利点により，CBT方式によるITパスポート試験は受験のしやすい，身近な試験となるものと考えている。

4. CBT方式の申込方法等

CBT方式のITパスポート試験への申込みから受験までの流れを示したものが図3であり，希望する試験会場（全国47都道府県に1ヶ所以上会場を設置），試験日時で受験することができる（CBT画面イメージは図4を参照）。また，

試験結果はその場で確認することができるほか，受験から1年間確認することもできる。

試験時間や出題数など，試験形式については，図5のとおり，これまでの筆記方式とほぼ同様であり，受験手数料は現行と同じ5,100円である。

5. 最後に

冒頭で述べたように，現代社会では，ITが生活の隅々にまで浸透しており，今なおITは成長を続け，新しいITを取り入れた社会へと発展し続けている。こうした中，国民一人ひとりが働く上でも生活する上でも，ITの正確な知識と，正しく使いこなす術（すべ）を身につけてこそ，その効果が最大限発揮され，望ましいIT社会の実現に向かうと思われる。ITパスポート試験は，こうした時代のニーズに応えるため，また，IT人材の裾野を広め国家としてのITレベルを上げたいという国の指針のもと実施しており，今回，CBT方式を導入することで，さらに多くの人がこの試験にチャレンジしてくれることを期待している。

<注>

- 1 http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00campaign/index.html
- 2 <http://www.jitec.ipa.go.jp/fukyu/index.html>
- 3 http://www.jitec.ipa.go.jp/fukyu/fukyu_02.pdf

<試験内容>

試験時間 165分

出題数 100問

小問：84問

中間：4問（1中間につき4小問出題）

出題分野

ストラテジ系（経営全般）：35問程度

マネジメント系（IT管理）：25問程度

テクノロジー系（IT技術）：40問程度

合格基準

総合評価点 600点以上／1,000点

<分野別評価点>

ストラテジ系 300点以上／1,000点

マネジメント系 300点以上／1,000点

テクノロジー系 300点以上／1,000点

図5